会員の広場	2022年1月1日発行メールマガジン第18号

寅年に因んでトラツグミ

佐倉市　　坂本文雄

トラツグミは黄色と黒の配色を虎模様に見立てた名前と一目で分かります。

身の回りには危険を示す注意色として黄色と黒が使われているくらいなのでトラツグミは自然の中でさぞ目立つと思うでしょうが、木漏れ日のチラチラするような林内では不思議なほどのカモフラージュ効果を発揮します。（写真左）
県内の広範囲で観察できるものの数は多くないのでこの鳥に出会うと得した気分になります。
運良く見つけても写真を撮ろうとしてカメラを向ける間に見失ってしまい、何度も探し直すことがあります。

もう一つ不思議な点は警戒心の強弱です。
遠くから視線を向けただけでも飛び立ってしまう時もあれば、人間の存在を無視しているかの様に至近距離で餌探しをする時もあります。
この差は何なのでしょうか？
地上での餌取りの仕方では嘴で落ち葉をかき分けて虫を探すのは他のツグミ類と同じですが、痙攣したかのように全身を小刻みに振動させるのは、落ち葉の下のミミズなどを追い出す行動と思います。（写真右　ヤスデを捕食）
県内では越冬期の観察が多い為か、植物質の餌を食べている場面はあまり見かけません。他の季節には木の実などを食べると思います。
右の写真は喉から丸いものを吐き出した場面ですが、果肉を食べた後のリュウノヒゲの種に見えます。撮影した時期は12月で林床にはヤブコウジなどと共に自生していました。
　夜間に聞こえる鳴き声は不気味で鵺（ぬえ）という妖怪の声と恐れられたそうです。
私は録音の声を聴いただけで、まだ野外で生の声を聴いた事がありません。

ネット画像で妄想をたのしむ

千駄堀（21 世紀の森と広場）など身近な場所での素敵な自然写真がたくさん掲載されるブログ「じゅんねん庵」、お気に入りに登録して楽しませていただいている。11 月 26 日*「梅の幹に、ジョロウグモの卵が産み付けられていたから、パチリ。ところが、帰宅して写真を見ると、卵粒が下の方にポロポロと落ちかけている。シジュウカラあたりに食べられ、一部が残ったのであろう。」*とありました。

なるほど、ポロポロと落ちかけている卵がみえます。野外では気づかなかったことに写真で初めて気づくことってありますね。特にしっかりと上手に写した写真は、細かなところまで鮮明に見れるので、現地で老眼の目で見るよりもよっぽどよく観察できます。今までにも卵のうのカバーが破れていて、鳥につつかれたと思われるものはいくつか見たことがありました。でもこの卵のうはカバーしている糸は無傷のようにも見えます。「このお母さんはカバーが少し下手ですれていたのかも？」などと想像を膨らませて楽しみました。

ブログじゅんねん庵 11 月 26 日掲載のジョロウグモ卵のう

しかしその後もう一度写真を見ると、何か違う気がしてきました。下の方にパラパラとほぐれたピンクの卵が見えますが、どうも上の方のカバーの真下に卵の塊がありそうです。鳥につつかれたのではなく、カバーがずれたのでもないとすれば・・・ここからはもう想像というより妄想です・・・産卵用ベッドの準備中に産気付き、ベッドの上で体勢を整える前にパラパラと卵が出てしまった？　あ～、慌てただろうなぁ。イヤそれとも、冷静にその続きのほとんどの卵をちゃんとベットの上に産卵したのかもなぁ。それとも初産でベッドに卵をくっつけるのが下手だっただけかな？

そんなこんなの妄想中に検索してみたらジョロウグモの産卵（動画も）｜ 虫散歩（main.jp)がヒット！何時間もかかるジョロウグモノの産卵を YouTube で見ることが出来ました。座ったままで、こんなに楽しい自然観察（自然妄想？）が出来る時代に生まれて、なんて　シ・ア・ワ・セ・💛

（流山市　渋谷孝子）

初春✿初夢✿初観察

小坂　裕子（白井市）

初春、初夢、書初め、初日の出・・・一月はたくさんの“初”がありますね。

さっそく初観察会を済ませたかたもいらっしゃるでしょうか。

さて、人生初の観察会（自然観察）はいつでしたか？　昔は観察会などなかったが近所の野山で大人の目も気にせず自然と戯れた少年時代、小学校の遠足の山で先生と友達との思い出、あるいは子どもの観察会に同行したとかでしょうか。

私事ですが以前、母子保健推進員として生後一か月ごろの赤ちゃん延べ数百人のお宅訪問をしました。子育ては母親だけに任せる時代ではありませんが、産後の母子への支援活動なので新生児さんと初々しいお母さんに接して感じたことを記したいと思います。

育児書や母子手帳では、生後一か月ごろに外気浴を始めましょうと推奨されています。

誕生してから室内だけで過ごしていた赤ちゃんが初めてベランダ、お庭、家の周り等、短い時間ですが屋外に出ます。初めての太陽の光、温もり、木々や街の香り、様々な方向から感じる風、抱っこしているお母さんも「お日さま暖かいね」、「キンモクセイが良い香りね」など声をかけることでしょう、お母さんにとっても産後久しぶりのお外です。お母さんも穏やかな新鮮な気持ちになります

不思議なことに初めての外の世界なのに赤ちゃんは泣くこともなく、ウトウトしたり、手足を活発に動かしたり、気持ちよさそう。

私が思うにはその日が人生初の自然観察になるのではないでしょうか。

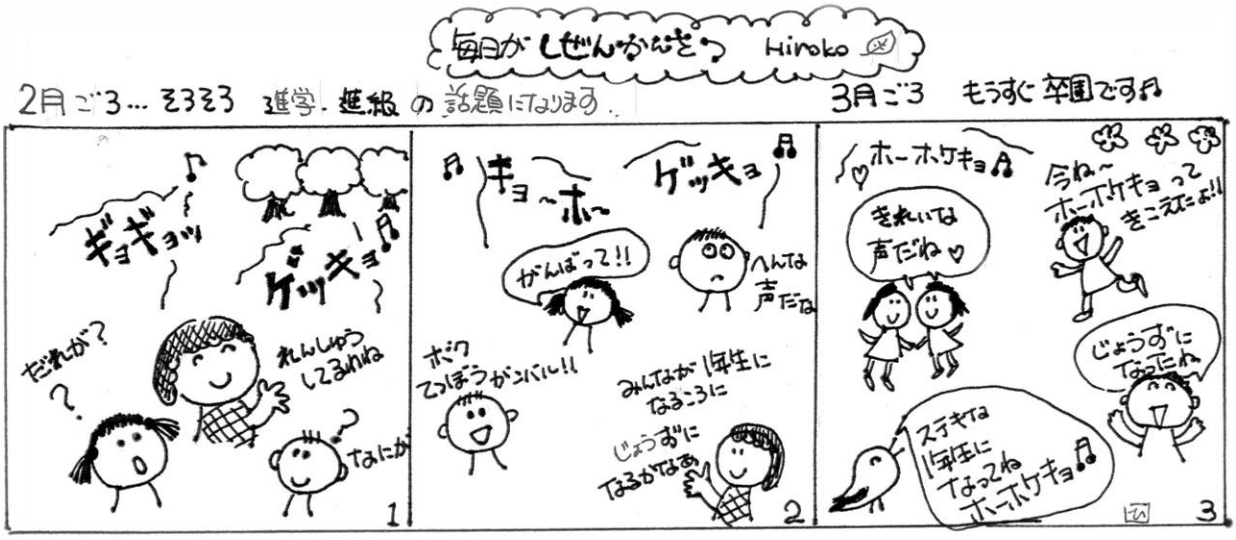
それから徐々にお外時間が長くなり、お座りできるようになると、公園の芝生に座り、芝生の感触に驚いたり、草花を握りしめお口に運んでしまう赤ちゃんもいるでしょう。揺れる木々を見上げ、空飛ぶ鳥を指さしたり、足に這う蟻を不思議そうに見たり・・。太陽の光を浴びて体内ではカルシウムが形成され、様々な外の刺激で視力も聴力も嗅覚も発達します。身体のリズムも整います。

人は、食べ物を摂取しないと生きていけませんが、食べ物と同じように自然の力も人が健やかに成長し生きていくのに欠かせないものだと思います。

自然が好きで自然観察を楽しむ人生を送っている自然観察指導員の私たちは、昔々、赤ちゃん時代の初観察体験が心地よい初体験だったかもしれませんね。

私が、新芽が出るころの透明感のある薄い黄緑色の山の色合いが一番好きな理由は、五月生まれなので初めて見て感じた景色の印象が残っているのかしらと想像しています。

最後は♪毎年、ウグイスの声が聞こえ始める２月ごろに職場の保育園や幼稚園の子どもたちに話す私の定番ネタです。リアルに毎年ある子どもたちとのエピソードをマンガにしました。



四街道市内 最近確認した植物(観察記録)

栗山 忠俊（四街道市）

コロナ禍も年を越してしまい心配なところもあります。観察会などグループでの活動が制限されてきました。三密を避け一人観察をしてきました。

この２年間に市内で（一部千葉市）記録されていない植物がありましたので紹介させていただきます。

ハコベホオズキ　ナス科

南アメリカ原産の多年生草本。明治時代に小石川植物園で栽培されていたものが、逸出し野生化した　関東地方以西から中国地方に帰化している
千葉県内では 1976 年に習志野市谷津町で採集され報告された
花期　5～11 月
四街道 和良比　2021/5/7 撮影

コゴメイヌノフグリ　オオバコ科

原産地はヨーロッパで昭和 35 年頃から東京都の小石川植物園が種子交換で栽培を始めたものが逸出したとされる　花はオオイヌノフグリに比べて小さい　葯は淡黄色(オオイヌノフグリの白化したものの葯は青色)
2008 年柏市利根運河のコゴメイヌノフグリが千葉県植物誌資料に発表
四街道 美しが丘　2021/3/23 撮影

ヒメアマナズナ　アブラナ科

ヨーロッパ原産の越年生草本　アメリカやアジアに帰化している
明治年間にアマ栽培と一緒に流入し関東地方を中心に帰化が知られてきた　別名ヒメタマナズナ
葉面には二股毛や星状毛が多く見られる
四街道 和良比　2020/5/13 撮影

セイヨウヒキヨモギ　ハマウツボ科

ヨーロッパ西部原産で 寄生根を延ばしてヨモギなど他の植物から養分を得る半寄生の１年生草本　　1973 年に、船橋市で採集された帰化植物　　茎葉には白色の毛と腺毛が密生する
四街道めいわ　20/5/20 撮影

イヌハギ マメ科

千葉県では北部に限られている(千葉県植物誌)
花序の基部付近の葉腋に閉鎖花が多数塊状に集まってつく　　全体に黄褐色の軟毛がある
花期は７月～９月　葉の縁はわずかに内巻きする
千葉県 RDB；C.　環境省；RDB Ⅱ類（VU）
千葉市若松町 2021/9/17 撮影

市内での調査記録
四街道たろやまの郷 植物リスト たろやま会　2019
四街道成山植物リスト 2006 年　四街道自然同好会
総合公園植物リスト 2015 年 総合公園の植生調査の会
四街道市自然環境調査報告書 2003 年 2006 年　植物目録　四街道市自然環境調査業務委託
中央博物館天野先生観察会記録 四街道総合公園～山梨　2015 年
参考；佐倉市植物目録 2006 年 2016 年 佐倉野草会
千葉県植物誌　2003 年　千葉県

ネコハギ

2021 年の小庭から

高橋節（松戸市）

10 数年前に母から受け継いだ小庭。

チョウが来る小庭にしようとチョウが好きな植物や樹木を植えてきました。その甲斐あって今年はたくさんのチョウが立ち寄っていきました。

ナミアゲハ、ジャコウアゲハ、カラスアゲハ、ナガサキアゲハ、アオスジアゲハ、ルリタテハ、オナガアゲハ、クロアゲハ、ツマグロヒョウモン、モンシロチョウ、アカボシゴマダラ、ヤマトシジミ、ムラサキシジミ、キタキチョウ等が４月から 10 月の小庭に。

ツマグロヒョウモン、アオスジアゲハ、アカボシゴマダラ、ルリタテハ、ムラサキシジミ、ジャコウアゲハの幼虫は見ることができたのですが今年はなぜだかナミアゲハの幼虫を一匹も見ませんでした。例年シークワサーの幼木の葉を食べつくすのに不思議な年でした。蛹までになったのを見たのはアオスジアゲハとツマグロヒョウモン、ジャコウアゲハのみでした。

チョウの幼虫がたくさん見られる春は、鳥たちの子育ての季節でもあり、鳥のさえずりがにぎやかです。今年はスズメ、シジュウカラがにぎやかでした。鳥のほかにもオオカマキリやニホンカナヘビも狙っていてちょっとした食物連鎖が見られました。

温暖化の影響でしょうか、小庭で初めてクロコノマチョウを見ました。食草はススキ、ジュズダマ、ヨシ、ダンチクだそうです。近辺にススキ、ヨシはあるのでこれからも見られるでしょうか。チョウではありませんがキマダラカメムシの幼虫も。どちらも近年関東でも見られるようになったそうです。

コロナ禍で野外観察に出かけられませんでしたが家の中からチョウが立ち寄っていくのを眺めたり、産卵の様子を見たりその成長を見て楽しんだり悲しんだり、チョウを通して自然を楽しんだ一年でした。来年は野外で自然観察をマスクなしで楽しみたいです。

クロコノマチョウ

キマダラカメムシ幼虫

ツマグロヒョウモン

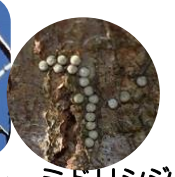
冬のお宝さがし(大草・加曽利・園生の森)

冬は植物や虫を見る機会が少なくなる時期ですがそれでもよく探すとお宝はたくさん隠れています。ガガイモの種の旅立ちがみられるか。オオトリフンダマシの子グモたちは見られるか。葉っぱの散った枝先にウスタビガやヤママユ・クワコの繭はみられるか。また無事に羽化した跡の脱出孔があるか。ハンノキ幹にミドリシジミの卵、クヌギの幹にクヌギカメムシの卵塊があるか。翅が退化したフユシャク仲間のメスは見つけられるか。ヒサカキの葉裏にホタルガの幼虫を見つけられるか。そんな楽しみがいっぱいです。

ガガイモ

オオトリノフンダマシ

卵越冬ウスタビガ


ミドリシジミ

蛹越冬
アオスジアゲハ

幼虫越冬
カギバアオシャク

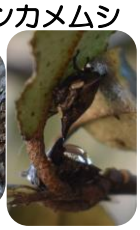
ヤママユ

クヌギカメムシ

ホタルガ

成虫で越冬

ウシカメムシ

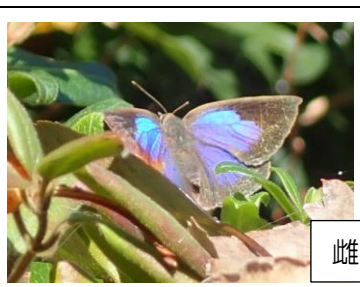


松本　美千代　　（千葉市）

越冬するムラサキシジミ

冬の散歩は寒いけど、楽しみがある。寒い自然で逞しく生き抜く生き物たちに運が良ければ出会えるからだ。越冬する虫は、トンボ、カメムシ、蝶や蛾の仲間など意外とたくさんいる。

穏やかな冬日和に谷津田へ出かけると、私の足音に驚き、越冬しているチョウが飛び立った。ムラサキシジミだ。すぐ近くの葉っぱに止まり、羽を閉じたり、開いたり。閉じると枯葉と見分けがつかない。やがて開いたまま、日向ぼっこ。太陽の光を受けて、美しく青紫に輝き、しばらく見とれてしまう。ムラサキシジミは、アラカシなどのブナ科の常緑樹の葉をエサとしている。幼虫は、体から特別な蜜を出し、アリを体に集め、蜜を与えてハチなどの天敵から身を守っらせている。身体を張っての生き残り戦術に感服！



アリと幼虫
（松本美千代さん撮影）

山下美佐子　（東金市）